

中教審 生活・総合的な学習の時間 第5回意見（補足）
2026.3.11 岐阜市教育長

昨日、十分に語るができなかったので、補足します。

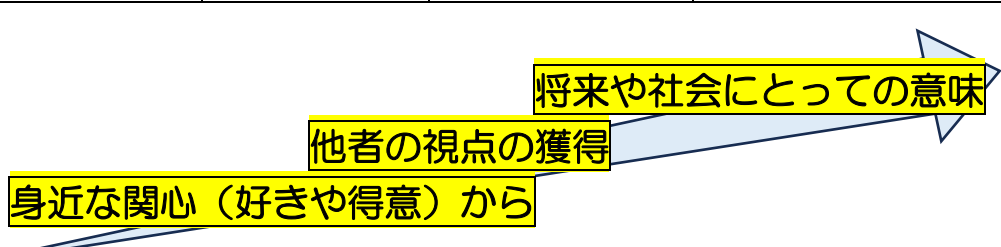
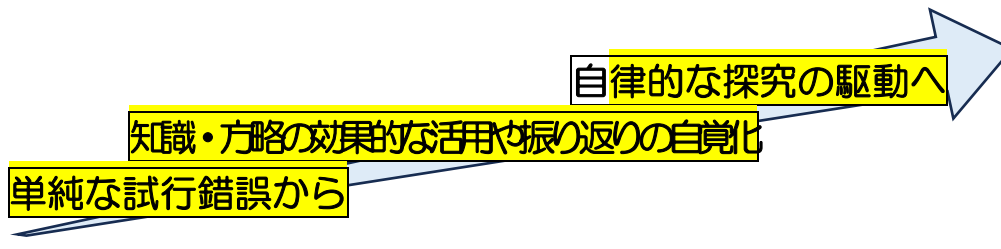
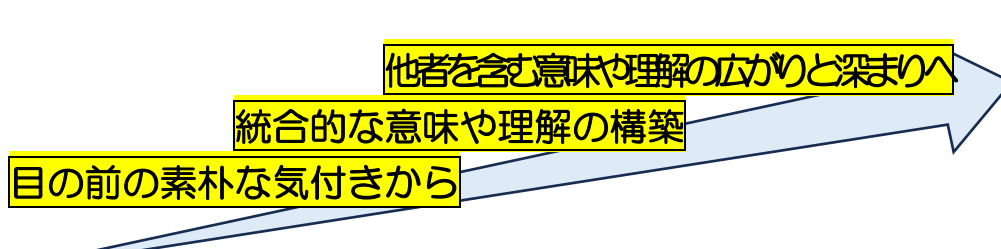
意見①

<資料2 P11 関連>

P10～11は学校現場としても、総合的な学習を俯瞰する重要な資料となります。

幼児教育→高校までの発達段階に応じた探究の質の高まりの表現が、まだ、漠然としているので、もう少し図示の方法を変更したほうがよいと考えます。

文面の配置（図示の方法）と、実際の文言例を以下に示します。

	幼児教育	小学校	中学校	高校
課題の質				
プロセスの質				
成長の質				

加えて、表現する文言も、もう少し工夫が必要であると思います。
一例を示します。(言葉と総合のねらいをリンクさせる)

課題の質：発達イメージの描き方

幼児～小低 **自分にとっての身近な興味・関心**
小高～中 **暮らしの中の疑問や課題への着目**
中～高校 **将来や社会にとっての意味**

プロセスの質：

幼児～小低 **五感を通した直接的な働きかけや体験**
小高～中 **意図的・計画的な取組と探究方略への着眼**
中～高校 **探究の自律的な調整と意図的な協働**

創造の質 幼児→小低 **体験を通して得られた自分なりの新たな気付き**
小高～中 **統合的な意味理解や納得解の構築**
中から高校 **多面的・総合的な理解を基にした提案や発信**

意見②

P14 総合における評価の在り方について

評価の場を限定してみとるのではなく、一貫した視点で、継続的総合的にみる意味でも、P14の図は、現場でも活用できると考えています。

昨日も述べた通り、総合の核心は、「リアル」と「ストーリー」そして、その過程を通して得られる納得解にあります。よって評価も、探究の過程でその子が見出した探究に、どんな足跡やストーリーがあり、その過程でどんな気づきや納得が生まれたのかを「成長」という視点で表現することが大切であると考えます。

実際の総合的な評価文面を「信長と岐阜城探究」で示してみます。

「毎日通学しながら見上げる岐阜城が、なぜあんな金華山の頂にあるのか、また、信長はなぜ清須城ではなく岐阜城を統一の拠点にしたいと思ったのかを明らかにするため、実際に金華山に登り、歴史博物館で史実を調べるとともに、対比対象としての清須城にも足を運び、学芸員さんの助言を受けながら、時代背景、美濃と尾張の立地環境、戦略、野望といった視点を総合して考えを深めていった。さらには、信長の時代を読む洞察力、貫く信念の強さといった魅力に次第にひかれていくようになった。」

以上、一つの文例ですが、これが、教科にはない総合の魅力でもあるので、総合の解説書の中に、P14 とともにこのような文例を示すと理解されやすいと思います。